自由民権記念館だより

自由のともしび

JIYU NO TOMOSHIBI

VOL.82

2017 March

□ 第88回高知近代史研究会報告「薩長盟約の実態ー英雄史観からの脱却ー」
□ 展示環境等をリニューアル!
□「志国高知 幕末維新博」関連企画展
□ 第17回社会科自由研究作品展報告
□ 民権家人物録「弘田伸武」

「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第一弾

「汗血千里の駒」が描く坂本龍馬

ヒーロー坂本龍馬・誕生!

1883(明治16)年『土陽新聞』に連載され、坂本龍馬イメージの骨格を形成した最初の龍馬伝「汗血千里の駒」の内容を全挿絵とともに紹介。

龍馬暗殺・近江屋

期間 2017(平成29)年 3月4日(土)~9月18日(月・祝)

会場 高知市立自由民権記念館 2階 特別展示室

地域会場

■リレーエッセイ

克服すべき課題はどこに

高知に戻ってきたものの職はなく、さて如何したものかと思案していた矢先、縁あって、当時の自由民権記念館の関田館長から、資料目録の編集作業をしてみないかと声をかけられた。平成四(一九九二)年のことである。高知大学の学生二名と共に、一万点を超える資料の分類・整理を行い、記念館の資料目録第一号として発刊されたのが『細川家資料目録』である。この資料群は、吾川郡春野町秋山(現高知市)の細川家に伝来したもので、土佐藩郷士、自由民権運動家、明治のキリスト教者のあり方を具に伝えるものとしてよく知られている。これが、私の土佐史との出会いであり、そして社会との出会いでもあった。

その後、私は財団法人土佐山内家宝物資料館に就職する。膨大な大名家資料を前に、早速新資料館整備に向けての準備を始めたが、その際に参考としたのは、自由民権記念館であった。潤沢な図書購入費、目配せよく揃えられた専門誌、参考図書の開架、閲覧室の設置等々、当時の県内文化施設で、ここまで卓越した考えをもった施設は他にはなかった。その後、また縁あって、自由民権記念館のリニューアル検討委員会の委員になり、そこで、記念館立ち上げに関わった士気高き人たちの、細部にまで至るこだわりを知ることになる。それは、活動の内容においても然り、建造物の構造においても然り、「主張する施設」とはかくあるべきかと感動さえ覚えたのである。

本年三月に、高知城追手門前に高知県立高知城歴史博物館が開館、私たち公益財団法人土佐山内記念財団はその指定管理者として、管理・運営を行うことになった。

後発館の使命は、先発館の課題を克服することにあると言われるが、私たちが目標とする文化施設の一つが、高知市立自由民権記念館であることは間違いない。

公益財団法人土佐山内記念財団
高知県立高知城歴史博物館館長　渡部　淳

第88回
高知近代史研究会報告

薩長盟約の実態

―英雄史観からの脱却―

家近　良樹
（大阪経済大学教授）

二〇一六（平成二八）年十一月二六日に、「薩長同盟・幕長戦争一五〇年」共同企画として高知県立坂本龍馬記念館・北川村立中岡慎太郎館と共催で開催した講演要旨を掲載します。

今年（二〇一六年）が薩長盟約一五〇年、来年が大政奉還一五〇年、再来年が戊辰戦争一五〇年、そして大河ドラマ「西郷どん」の放映が決定した。

なぜ、幕末維新史が人気なのかというと、日本史上でも有数の「激動（大転換）期」だったことがあげられる。一八五三年のペリー来航から一八七一年の廃藩置県までの十数年の間に、身分制の打破、封建制から資本制へ生産様式が移行するという、まさに変革期特有のダイナミズムに溢れる点にある。薩長盟約もこの時期の有名な出来事である。

結論からいうと、薩長盟約は、世間が思っているほど大した出来事ではない。

長年にわたる通説では、慶応二年（一八六六）一月に、西郷隆盛、小松帯刀・木戸孝允らの間で締結された、幕末政治史上でも画期をなすものとして特別視されている。

しかし、近年の有力な説は、盟約は武力倒幕を目指した軍事同盟ではなく、薩摩藩が長州藩の政治的復権（冤罪赦免）に向けて周旋尽力することを一方的に約束したもので、締結後に薩摩藩が忠実に約束を履行した、というものである。

まず、木戸が上洛するまでの経緯について、慶応元年末に、西郷の依頼を受けた黒田清隆が、単身山口に乗り込んで、木戸に上洛を促したといわれる。

しかし、木戸の後年の回想・手記に出てくる薩摩藩士は黒田だけである。さらに、大坂に到着した黒田が京都にいる西郷に送った書翰に、西郷に木戸を出迎えてほしいと書かれている。史料からうかがえる西郷の人間性は、気配りの人で、非常に細かいところまでよく気が付く人物である。それゆえ、西郷が黒田に木戸の上洛を促すよう依頼したのなら、自ら率先して迎えに行くだろう。すなわち、西郷自身が盟約成立のため、積極的に行動したとはいいがたいと考えられる。

次に、盟約に関わる不可解な点は、坂本龍馬宛木戸孝允書翰以外に、薩長間に盟約関係が成立したことをはっきりと証明する史料が存在しないことだ（とくに薩摩側にはない）。

慶応三年六月時点で、薩摩・土佐両藩首脳の間で結ばれた薩土盟約は、「約定の大綱」や「約定書」が、国元の島津久光などにきちんと報告され、現存している。

また、木戸書翰の内容は実に奇妙奇天烈で異様である。

「皇国の大事件」という言葉が四回出てくる。そして龍馬に裏書を求める文言も四回出てくる。一人に宛てた手紙でこれは異様である。そもそも、木戸はどうして、龍馬に西郷の発言内容の確認と、それを証明する裏書を求めるという回りくどいことをしたのか。

ひとつには、木戸が山口に帰って政治活動をするうえで、大きな手柄を必要としたことによる。

山県有朋の回想録に、薩摩との関係改善を渋る高杉に対し、山県が「木戸孝允がせっかく京都に行ってあれだけの手柄を挙げたのだから」といって説得するくだりがある。そこには追い詰められた長州を救おうとする木戸の悲壮な思いがうかがえる。

さらに西郷が口頭で言ったため、証拠が残らないことである。そこで、龍馬の裏書を得ることで、薩摩が逃れられない言質をとる必要があった。

家近良樹氏

そして、六カ条の内容をみると、第一条の薩摩藩兵上洛は、御所に何かあったときは藩兵を京都に派遣するという、薩摩藩の従来の方針と同じである。

次に、これは重要なことだが、第五条に出てくる「決戦」の対象は、幕府ではなく、朝廷上層部と結びついて強い力を発揮していた一会桑（禁裏守衛総督・一橋慶喜、京都守護職・松平容保〈会津藩主〉、京都所司代・松平定敬〈桑名藩主〉）である。なかでも会津藩が長州藩の政治的復権の障害となることが、当時の政治的経緯から想定された。

また軍事同盟説についても次の理由から否定できる。

まず、西郷は長州藩の政治的復権に向けて朝廷工作を行うことは約束したものの、長州藩とともに戦うといったことは、いっさい求めていない。そして、慶応三年八月の有名な「三都一時（に）事を挙げ候策略」でも、西郷は長州藩士に対し、対徳川全面戦争の計画を伝えながら、長州側に対して軍事力の提供など直接的な協力はいっさい求めていない。軍事同盟が締結されているなら、直接的な協力を求めるはずである。

つまり、薩摩藩にとって、六カ条の内容は、倒幕を意図したものではなく、藩の方針の延長線上にある。決して画期的とはいえない。だから薩摩に史料が残っていないのである。

盟約が画期的なものだと思い込んで眺めれば、なにもかもそのように見えてくる。だが実像は、慶応二・三年段階の薩摩藩の動向は、基本的には藩独自の思惑と計算に基づいてなされたと考えるのが妥当と思われる。

「志国高知　幕末維新博」開催に併せ、展示環境等をリニューアル！

県補助制度を活用

高知市立自由民権記念館は、1990（平成2）年4月の開館以来27年目を迎えています。その間、施設・設備の損耗・老朽化が進む一方で、予算等の関係から部分的な機器の入替等は行ったものの、展示環境等の抜本的な改善策を講じることができずにいました。

この度、高知県の主催で開催されます「志国高知 幕末維新博」の地域会場となることから、同博に関する県の補助制度である「高知県歴史観光資源等強化事業費補助金」を活用して、展示環境等のリニューアルを行うことになりました。

リニューアルの詳細については後述のとおりですが、その他にも、この県補助制度を活用することで、館内での公衆無線LANサービスの提供開始や4言語パンフレットの作成といったインバウンド対策、また館外にある自由民権運動関連史跡の案内図作成・配布を行うなど、常設展や企画展以外でも様々な情報発信が可能となっています。

これらのリニューアルによって自由民権記念館がどう変わったのか、また今後どう変わっていくのか。ぜひ、ご来館のうえ、直接お確かめいただきたいと思います。

展示環境のリニューアル

「志国高知 幕末維新博」に関連する企画展の会場となる、1階「自由ギャラリー」と2階「特別展示室」では、次のような展示環境のリニューアルを行います。

●自由ギャラリー

［各種クロスの貼替］
壁、床、吊パネル
壁ケース内の壁・床・展示台
［照明のLED化］
壁ケース内照明
室内スポットライト

●特別展示室

［各種クロスの貼替］
壁ケース内の壁・床・展示台
［照明のLED化］
壁ケース内照明
室内スポットライト

27年の間に損耗したクロスを新しく貼り替えるとともに、照明器具のLED化を行うことで、以前と比較して、より展示資料が見やすく、かつ展示資料への影響が少ない環境を構築しています。

このギャラリーが、どう変わったのでしょうか？

展示ケースのリニューアル

従来、当館で使用していた展示ケース（覗き型）は、全てノンエアタイト式のものであり、展示室内の空調機能に大きく依存していました。

この度、より機密性の高いエアタイト式展示ケースを新規購入することで、展示室内の空調による影響が少なく、より調湿機能の高い展示空間の構築が可能となりました。これと展示環境のリニューアルとを併せることで、今までは資料保護の観点から展示を見送ったり、条件のクリアが難しく借用が出来なかった貴重資料等についても、展示が可能となります。

また、今まで保有していなかった行灯型の展示ケースも2台購入し、立体物をはじめ、より多様な形態の資料を間近にご覧いただけるようになりました。

映像機器のリニューアル

現在、2階映像展示室において、「自由と土佐」「行動する思想家 植木枝盛」（各15分）という2つの映像資料を放映していますが、共に27年前に作成したものであることから、平成29年度にこれらの映像コンテンツを新作することとしております。本年度は先行して映像関係機器のリニューアル（フルHD化）を行いました。

映像展示室はもちろん、1階民権ホールの映像及び音響機器もリニューアルすることで、映像展示室に入りきれない団体の皆さまへの対応をはじめ、同ホールを使った講演会や研究発表会、また市民団体等における映画上映会等においても、より上質な画像及び音響の提供が可能となっております。

また、開館時に放映していた中央階段前のスクリーン映像を復活させるとともに、デジタルサイネージ機能を追加することで、幕末維新博関係情報をはじめ、さまざまな画像情報を提供することも可能となりました。

この画面も大きくなります。
新作映像にご期待ください。

「志国高知 幕末維新博」関連企画展

大政奉還150年・明治維新150年を迎え、平成29年3月4日から平成31年3月31日まで、高知県全域で開催される「志国高知幕末維新博」。自由民権記念館はその地域会場の一つとなっています。博覧会期間中には、次に紹介する企画展をはじめ、さまざまな関連企画を準備しております。ご期待ください。

第1弾 「汗血千里の駒」が描く坂本龍馬

期間 2017(平成29)年 3月4日(土)～9月18日(月)・(祝)

会場 2階 特別展示室

ヒーロー坂本龍馬・誕生！

一八八三(明治十六)年『土陽新聞』に連載され、坂本龍馬イメージの骨格を形成した最初の龍馬伝「汗血千里の駒」の内容を全挿絵とともに紹介します。

長崎の坂本龍馬

最初の龍馬伝

坂本龍馬を一躍有名にしたのは、自由民権家の坂崎紫瀾が一八八三(明治十六)年に『土陽新聞』に連載した最初の龍馬伝「汗血千里の駒」との連載を出版した刊本です。

この連載は自由民権運動への激しい言論弾圧のなか始まりました。本人も言論弾圧を受けていた坂崎には、幕末の厳しい状況の中で活躍する龍馬像と、自分たち民権家像を重ね合わせようという意図がありました。

龍馬が残した近代国家建設の課題は、いま

刊本『汗血千里駒』
[個人蔵]

第2弾 幕末・明治の錦絵展

期間 2017(平成29)年 4月29日(土)・(祝)～7月2日(日)

会場 1階 自由ギャラリー

申込不要

記念講演会「激動期の浮世絵」
中谷有里(高知県立美術館学芸員)
6月17日(土) 午後3時～5時
1F 民権ホール

浮世絵の中でも特に多色摺りの鮮やかな色彩を持つ版画を指す「錦絵」。美術品であり、当時の世相や事件を描くマスメディアでもあった錦絵の、多面的な魅力を紹介します。

錦絵は、版元である地本問屋が出資し、絵師が版下と呼ばれる原画を描き、彫師が絵師の描いた絵を板に彫り、そして摺師が紙に摺るという分業によって生み出されました。そして、江戸市中の「絵双紙屋」で広く販売されていました。

今回の展示では、明治憲法や国会開設を中心とする当館のコレクションに加え、(株)灘アートギャラリー様のご厚意により、迫力ある戊辰戦争の情景やきらびやかな文明開化の錦絵が出品されることとなりました。また、

[(株)灘アートギャラリー蔵]

「横浜交易西洋人荷物運送之図」五雲亭(歌川)貞秀／1861(文久元)年
アメリカ、フランス、イギリスなど5か国の船が認められる。近景と遠景を大胆にとらえた構図の中に、活気あふれる港の様子がうかがえる。

土佐に来たお龍

自由民権運動が担っていると坂崎は考えています。連載最後の挿絵が自由民権運動の理論的指導者で、龍馬の甥である坂本南海男（直寛）の政談演説の図であることは、そのことを端的に表しています。そして、連載には毎回挿絵が掲載され、読者の興味を掻き立てました。

こうして「汗血千里の駒」は今日まで続く坂本龍馬イメージの骨格を形成した作品となりました。

本展示では、全挿絵とともに「汗血千里の駒」が描く坂本龍馬を紹介します。

著者
坂崎 紫瀾（しらん）
「紫瀾」は号、本名は「斌」（さかん）

一八五三（嘉永六）年生。

一八八一（明治十四）年十二月、一年間の政談演説を禁止された坂崎は、翌年一月十五日の『土陽新聞』に「言論自由剥奪ノ広告」を掲載し、さらに遊芸稼人の鑑札をとり馬鹿林鈍翁と名乗って馬鹿林一座を結成、二一日から民権講釈の舞台にたった。ところが二二日に演じた「羅馬英雄プラタス小伝」の一節が不敬罪に問われ拘引された。これにより重禁固三ヶ月、罰金二〇円、監視六ヶ月の判決を受けた。その判決に対し上告し、保釈されていたときに『土陽新聞』に「汗血千里の駒」の連載を開始した。

一九一三（大正二）年没。六一歳。

演説する坂本直寛

ピストルで応戦する龍馬

「諷刺画子供遊水合戦」
作者不明／制作年不詳
十数人の児童が二手に分かれて水合戦をしている。戊辰戦争を諷刺したもので、左が官軍、右が幕軍であることが旗印や紋所から分かる。

［当館蔵］

高知市民図書館近森文庫のコレクションの中から、「最後の浮世絵師」といわれる小林清親の、明治初期の情趣あふれる風景を描いた作品も何点か紹介する予定です。

世事全般のことを描く「浮世絵」は、肉筆画（筆で書いたもの）から始まりましたが、版画の技法の発達により、大量生産されるようになりました。大量生産したものを売るためには大衆の要求を反映したものでなければなりません。当時の「ブロマイド」といえる美人画や歌舞伎役者、現代なら観光地の絵葉書に当たるであろう風景画、当時の人々の耳目をそばだてさせた事件などが、題材として多く取り上げられるようになっていきます。

中でも幕末の大事件・黒船来航に始まる開国前夜の情景に材をとった錦絵は「横浜絵」と呼ばれ、今回はその中でも代表的な作品とされる「横浜交易西洋人荷物運送之図」が出品されます。

戊辰戦争に関しては、幅2メートルにも及ぶ、パノラマのような戦争画を始め、兵士を子どもや昆虫になぞらえて風刺する、ユーモアあふれる小品もあります。

天皇を始めとする皇室や維新功労者等の肖像がたくさん取り上げられていることも、明治以降の錦絵の特徴です。それまでは将軍や幕府の要人の肖像を題材として流布させることなどは考えられないことでした。現在の写真週刊誌を買い求める人々にも通じる心理が錦絵の流行を支えた面もあったことでしょう。

錦絵とともに江戸東京のにぎわいや、人々の息吹を感じ取っていただけると幸いです。

「扶桑高貴鏡」楊州周延／1886（明治19）年　［当館蔵］
1885（明治18）年に内閣制度が始まった。初代内閣総理大臣伊藤博文を始めとする11人の閣僚の肖像が描かれている。

第17回 社会科自由研究作品展報告

●前期　平成29年1月21日(土)～2月5日(日)
後期　2月7日(火)午後1時～2月23日(木)
●共催　高知市教育研究会社会科部会

会場の様子

この作品展は、当館開館10周年を記念して始まり、今年で17回目となります。今回も「歴史」「人物」「地理・文化」など全8分野に数々の力作が出品されました。

小学校34校、中学校1校から合計308点の応募があり、その中から41点を特別賞に選定し、2月11日(土)には表彰式を開催しました。

また、会場では開館25周年記念グッズ等が当たるクイズを行いました。自由民権運動で活躍した人物のイラストがクイズを出すという趣向で、皆さんに楽しんでいただき、131名の応募がありました。全問正解者の中から抽選でクリアファイル、バック、木製コースターをそれぞれ20名にプレゼントしました。

期間中1，382名の皆さんにご覧いただきました。どうもありがとうございました。

表彰式のアトラクションは「アコーディオンとパーカッションの演奏」で大いに盛り上がりました。

当館マスコットキャラクター「じゅうぴー」

第17回社会科自由研究作品展　特別賞41作品

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
自由民権記念館特別賞	地域・福祉	はりまや橋小学校	2	井上　哲周	人にやさしいくふうとユニバーサルデザイン
	歴史	昭和小学校	3	要　美帆	昔と今のくらしの研究
	総合	大津小学校	3	弘田　彩葉	平和なくらしと原ばくについて
	環境	第六小学校	4	藤塚　正浩	みぢかな水の流れと使い方
	産業・交通	昭和小学校	4	横山　大明	～海の県道278号～高知県営渡船
	人物	朝倉第二小学校	5	谷脇　璃美	豊臣秀吉
	地理・文化	介良潮見台小学校	5	矢田万里奈	全国の郷土料理と特産品調べ～高知県を詳しく～
	体験	高須小学校	6	片岡　龍弥	プロ野球選手に密着取材!!
自由のふるさと賞	環境	大津小学校	1	藤原　快成	ぽいすてはどれくらいあるのかな
		秦小学校	4	岡田　怜奈	集められたゴミがどうなるか
		一ツ橋小学校	4	山村　真慧	ゴミの行方
		潮江南小学校	6	牧　蒼依	シカの食害について
立志社賞	産業・交通	鴨田小学校	2	筒井ひかり	こうちのろめんでんしゃにぜんぶのったよ
		五台山小学校	3	蒲原　拓樹	高知市内のトンネル調査
		横浜新町小学校	3	河添　真宙	おじいちゃんの仕事しきびのさいばい
		潮江小学校	5	水井　優星	自動販売機の歴史にせまる
		江陽小学校	6	黒川みのり	ウエディングプランナーの仕事
夢・人・自由賞	人物	昭和小学校	4	前川宗太朗	長宗我部元親について
		一ツ橋小学校	4	衛藤　篤	発見！東久万～寺田寅彦の墓～
		高知大学教育学部附属小学校	5	永澤　奏優	高知のすてきなふたりの作曲家
		高須小学校	6	川下　陽菜	龍馬の生涯

賞	分野	学校	学年	氏名	作品名
よさこい民権賞	総合	小高坂小学校	4	徳平　隆佑	みんなの命はみんなで守る
		十津小学校	4	前田　祐依	高知市学校給食について
		はりまや橋小学校	5	森　美玲	全国のお祭り
		はりまや橋小学校	5	島﨑　碧	日本の昔の家のつくり
ジョン万次郎賞	体験	高須小学校	1	杉浦　理	2016せとうちげいじゅつさい
		初月小学校	3	古北菜々美	アミーゴお仕事体けん
		小高坂小学校	6	石筒早楽子	土佐の味～高知の夏の郷土料理～
		横内小学校	6	竹崎　天満	自転車 おとこ旅
自由のともしび賞	地域・福祉	旭小学校	3	小松　寛之	土砂くずれ防止にGO!
		昭和小学校	3	小松　夏穂	今、私にできること～しょうがいを考える～
		はりまや橋小学校	5	早川　知香	徹底調査 日曜市
		横浜新町小学校	5	宗光　飛羽	本屋さんの大研究
植木枝盛賞	地理・文化	初月小学校	3	大坪　奈央	土佐弁と私
		第六小学校	4	伊林　美希	日本の国技すもう～その歴史といま～
		昭和小学校	5	信清　択実	世界遺産姫路城のひみつ
		三里小学校	5	北村　美月	ようこそ日本各地から桂浜へ ナンバープレートからわかった日本の地名など
板垣退助賞	歴史	横浜新町小学校	3	森澤　実咲	古民家から学ぶ知恵と工夫
		介良潮見台小学校	4	梶原　大晴	国宝 彦根城について
		一ツ橋小学校	6	横山　美里	平山城(高知城)と海城(今治城)の比較
		初月小学校	6	大坪　茉緒	「土佐神社」

資料紹介

「志国高知・幕末維新博」にあわせ、当館が所蔵する幕末維新史に関する資料を四回シリーズで紹介します。

◆細川家資料

当館が所蔵する幕末維新期を含む資料群の中で最大のものは、本号一面で渡部氏も触れられている一万点を超える細川家資料です。細川家は秋山村（高知市春野町秋山）の郷士で近世は島村を称し、右馬丞義郷の時に維新を迎え、一八六九（明治二）年姓を本姓である細川に改め、翌年家督を息子善馬こと義昌に譲っています。

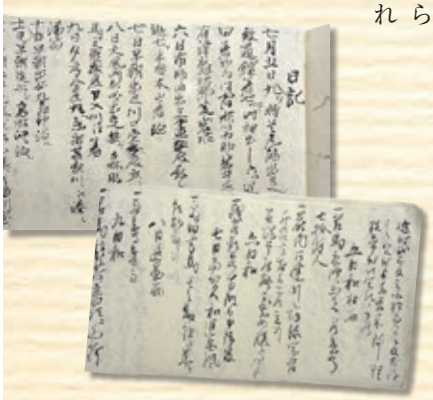
細川義昌は、幕末には高松征討、天皇東京行幸に随行し、一八七一（明治四）年には廃藩置県にともない新政府の軍事力として編成された御親兵の一員として上京しました。その後は地域名望家として活動しながら、自由民権運動、県会・衆院議員、水産業界、社会事業、キリスト者など多方面で活躍した人物です。

幕末維新期の資料としては、まず日記をあげることができます。義郷が『春秋自記帖』と名付けた日記は天保から一八六九（明治二）年までのものが残されています。郷士の日常生活が詳細に記されているだけでなく、幕末維新期になると緊張した世相、政治状況の記事が増え、それに対する義郷の分析や感想も記されるなど、幕末郷士の動向だけでなく、その意識状況を検討する恰好の資料と評価されます。

義昌も『春秋自記帖』と称する日記を残していますが、多くが現存するのは一八八一（明治十四）年以降で、幕末維新期は一八六八（慶応四）年と一八七一（明治四）年のものです。一八六八年のものは『万日記簿』と題し、天皇東京行幸に随行したときのもので、一八七一年のものは『春秋自記帖 第壱号』と題した御親兵時代のものであり、いずれも幕末維新期を一兵士の視点から記録したものとして大変興味深い内容です。

次に、書簡があります。中でも、天皇東京行幸に随行する義昌に義郷があてた書簡、また御親兵時代には母から義昌にあてた書簡が残り、日記と合わせて、幕末維新期を生きた土佐郷士の貴重な資料となっています。

細川家資料は、近世から近代にいたる膨大な資料群であり、様々な観点から分析することができます。詳細は、『細川家資料目録』（一九九六年）をご覧いただきたいと思います。



（上）『万日記簿』慶応4年7月5日
京都へ出発したことが記されている。
（下）『春秋自記帖 慶応4年』
7月5日の項に、「善馬京師へ出足 見立客七拾余人」とある。

民権家人物録

弘田（ひろた） 伸武（のぶたけ）
（1850～不明）

一八五〇（嘉永三）年、高知市中新町に生まれる。幼名は専吉。維新前は、剣術師範等をしていたが、一八六八（慶応四）年、戊辰戦争が勃発すると、土佐藩砲兵として出兵し、母成峠の戦いで負傷する。維新後の一八六九（明治二）年、御親兵として出仕し、砲隊大工係のちに砲隊伍長、陸軍軍曹となる。

一八七四（明治七）年、砲兵教導団に入団し同年帰県、除隊後巡査となる。

一八七五（明治八）年、娘婿の父杉本鷲郎とともに一等発起人として立志社に入社すると、翌年、立志学舎世話方となり、翌々年慶應義塾から雇い入れていた立志学舎の教員交代交渉のため上京する。

一八七七（明治十）年、西南戦争が勃発。土佐でも立志社幹部を中心に呼応しようとする動きもあったが、結局挙兵にはいたらなかった。しかし政府は、挙兵に加担したとして二五名を逮捕し、十年から百日の量刑に処した。立志社の獄と言われるものである。弘田も藤好静と村松政克が薩摩の桐野利秋と面談していたことを隠蔽したとして禁獄一年の刑を言い渡され、翌年東京から福島獄舎へ移送される。

一八七九（明治十二）年、満期で出獄し帰県。九月二九・三十の両日、来県中の河野広中の訪問を受けるが不在であったため、翌十月一日、坂本南海男（直寛）と一緒に河野の宿舎を訪問する。同月五日には満期出獄の祝宴が張られ、八十余名の来会者があった。

翌年二月九日大坂へ赴く植木枝盛に同行し、十五日栗原亮一、永田一二らと愛国社に会す。三月二十日に帰県するが、四月八日、愛国社の機関紙『愛国志林』発行事務のため再び上坂する。

一八八二（明治十五）年、七月に稲荷新地香雲閣で開かれた北町第一期自由懇親会や十一月の赤岡海浜での旧海南自由党魚漁大懇親会の発起人になり参加。

一八八四（明治十七）年四月、坂崎紫瀾が「自由燈」主筆として上京することになり、発起人総代として稲荷新地松鶴楼で送別懇親会を開く。このとき坂本南海男が送別歌を披露している。

翌年一月二十日、山田平左衛門、荒尾覚造と九州へ出発。帰県して二五日、松鶴楼で旧御親兵並びに旧近衛（騎砲銃）三兵大懇親会の発起人になり出席。芸妓愛吉が祝詞を述べている。五月になり土陽新聞社を退社。

一八八九（明治二二）年四月には、自由党員として、高知市会議員に立候補し、当選するが、十一月に辞職。翌年、伊東物部とともに浮津捕鯨会社紛議の仲裁に尽力した。その後の消息は不明。

完成！高知市中心部 民権史跡案内図

高知市中心部民権史跡案内図がこのほど出来上がりました。自由民権運動を彩る人物や民権結社など、紹介する史跡は37か所。そのほとんどが、徒歩や電車・バスなどの公共交通機関で気軽に訪れることができます。当館の展示とともに、自由民権運動の歴史や、その背景となった時代などを体感してください。当館やこうち旅広場（JR高知駅南口）ほかで無料配布しています。

※「志国高知 幕末維新博」関連事業として制作。

行事予定（春・夏）

予定は変更になる場合があります。
詳しくは自由民権記念館までお問い合わせください。

3月4日（土）～9月18（月・祝）

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第1弾
「汗血千里の駒」が描く坂本龍馬

会場：2階特別展示室
※常設展観覧券が必要

3月16日（土）15:00～17:00 申込不要

■高知近代史研究会第89回研究会
「志国高知 幕末維新博」関連講演会
「幕末維新150年 近代日本と土佐
ー維新・民権期の思想、理念はどのように実現され定着してきたのかー」

講師：川田 稔（名古屋大学名誉教授）
会場：民権ホール

維新期から民権期にかけて形成されてきた、自由や独立、民権の思想や理念が、濱口雄幸らの政党政治をへて、日本国憲法下の現在まで、制度的にどのように実現され定着してきたのかを考えます。

4月29日（土・祝）15:00～17:00

■友の会総会・記念講演会 申込不要
「兆民からの思想山脈」

講師：猪野 睦（文芸評論家・H28年度高知県文化賞受賞・高知ペンクラブ顧問）
会場：研修室
※総会 13:30～

4月29日（土・祝）～7月2日（日）

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第2弾
幕末・明治の錦絵展

会場：自由ギャラリー
※常設展観覧券が必要

6月17日（土）15:00～17:00 申込不要

■高知近代史研究会第90回研究会
企画展「幕末・明治の錦絵」記念講演会
「激動期の浮世絵」

講師：中谷有里（高知県立美術館学芸員）
会場：民権ホール

多色刷り木版の浮世絵（錦絵）は18世紀に確立されてから明治期に至るまで、社会と密接にかかわりながら庶民に親しまれました。幕末維新の社会の激動期においては、錦絵にも主題、表現手法、錦絵を囲む環境などに、さまざまな変化が訪れます。
本講演では揺れ動く時代ならではの浮世絵の魅力について、美術史の観点を交えながらお話します。

7月21日（金）予定

■夏休み子ども歴史教室

小中学生が、館内で自由民権運動に関するクイズラリーに挑戦。
※学校を通じて申込受付

8月26日（土）～9月3日（日）

■共同企画展
「震災報道写真パネル展」

会場：自由ギャラリー
主催：伊予鉄総合企画㈱・自由民権記念館

震災報道写真（高知新聞社撮影）のパネル展示を行います。昭和南海地震やチリ地震による津波災害から東日本大震災まで、約80点を展示する予定です。来るべき南海トラフ地震に備えるためにも、ぜひご覧ください。

※入場無料

8月26日（土）15:00～17:00 申込不要

■高知近代史研究会第91回研究会
「志国高知 幕末維新博」関連講演会
「神山左多衛の幕末明治」

講師：渋谷雅之（徳島大学名誉教授）
会場：研修室

神山左多衛は土佐藩が提出した大政奉還建白書の副書に署名した4人の重臣の一人。イカルス号水兵殺害事件のため長崎に移動した佐々木三四郎に代わり、土佐藩の大監察として歴史に登場した神山は、太政官弁事として岩倉具視のもとで新政府確立のため奔走する。土佐人らしい〝いごっそう〟ぶりを発揮して闊達に生きた神山左多衛の幕末明治を語る。

9月16日（土）～11月26日（日）

■「志国高知 幕末維新博」関連企画展 第3弾
土佐の絵図・地図展（仮題）

会場：自由ギャラリー
※常設展観覧券が必要

時代の郷（とき の さと）
自由民権記念館
自由のともしび
JIYU NO TOMOSHIBI

自由民権記念館だより　vol.82
発　行　2017（平成29）年3月1日　発行人　筒井秀一
発行所　〒780-8010　高知市桟橋通4丁目14-3　TEL.088-831-3336　FAX.088-831-3306
自由のともしび（Vol.60から）がホームページでご覧いただけます。